



DOOA, an inspiring brand, helps you enjoy aquatic plants more freely. Minimal and easy, and designed as a platform allowing everyone to nurture plants indoors. Feel closer to nature, and bring beauty into your life.

## シンプルスタイルでグリーンを演出 MAGNET LIGHT G マグネットライト G

小型LED照明器具「マグネットライト G」と対応する「マグネットライトスタンド」の組み合わせで、ガラスポット SHIZUKUやネオグラス エアのグリーンを演出。明るい光で植物が健康に育ち、葉や花が色鮮やかに輝きます。



マグネットライトG・マグネットライトスタンド20L・ガラスポットSHIZUKU設置例

令和3年2月10日発行(毎月1回10日発行) AQUA JOURNAL 3月号(305号) 発行/株式会社アワアデザインカンパニー 新潟県新潟市西蒲区塗山8554-1 TEL:0266-72-1994 定価100円 [本体91円]



## [巻頭グラビア] NATURE IN THE GLASS グリーン・ヘブン

ENJOY DOOA  
GLASS POT SHIZUKU

ADA Review  
イメージを表現する

NA PRODUCTS STORY #02  
[CO<sub>2</sub> SYSTEM]

DOOA STYLE #08  
「自然の時を育てる」

マイチャーラム 第8回  
「雪中昆虫観察記録!」

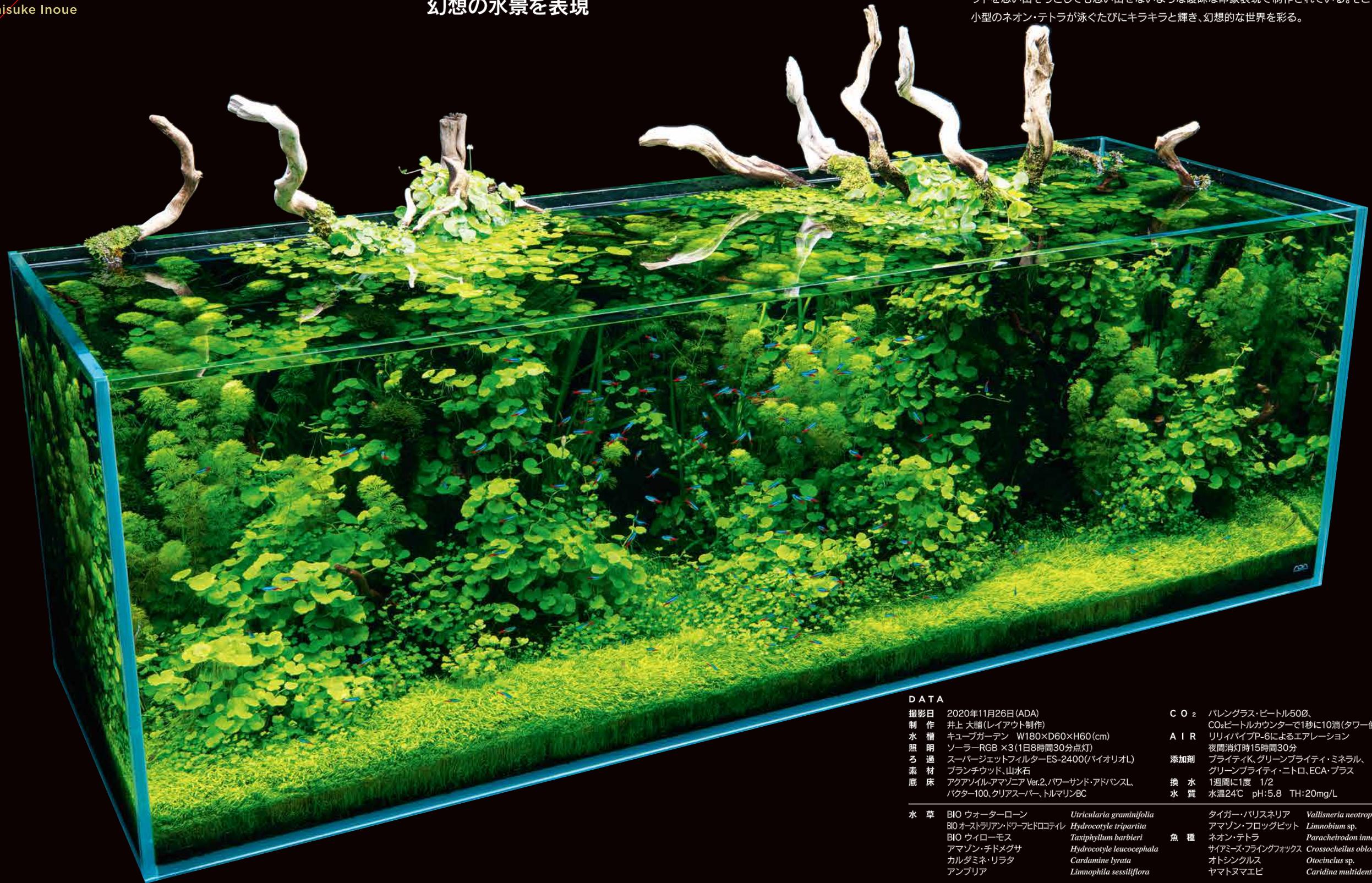
305  
vol.  
AQUA JOURNAL  
Nature Aquarium  
information magazine  
MARCH.2021  
100YEN

# NATURE IN THE GLASS

Daisuke Inoue

暗闇に浮かぶ  
ライトグリーンの葉で  
幻想の水景を表現

[ グリーン・ヘン ] 暗闇の中、無数のきらめく光を追っていくと、そこには浮遊感のある幻想的な水中の森が広がっていた。そんなストーリーを思い描いて制作した水景。この水景は、一見するとライトグリーンのチドメグサの仲間が強烈に印象に残るが、あとで形としてレイアウトを思い出そうとしても思い出せないような曖昧な印象表現で制作されている。そこでは小型のネオン・テトラが泳ぐたびにキラキラと輝き、幻想的な世界を彩る。



## DATA

撮影日	2020年11月26日(ADA)	C O 2	バレングラス・ビートル500、 CO <sub>2</sub> ピートルカウンターで1秒に10滴(タワー使用)
制 作	井上 大輔(レイアウト制作)	A I R	リリィパイプP-6によるエアレーション 夜間消灯時15時間30分
水 置	キューブガーデン W180×D60×H60(cm)	添加剤	ブライティK、グリーンブライティ・ミネラル、 グリーンブライティ・ニトロ、ECA・プラス
照 明	ソーラーRGB ×3(1日8時間30分点灯)	換 水	1週間に1度 1/2
る 過	スーパージェットフィルターES-2400(バイオリオL)	水 質	水温24°C pH:5.8 TH:20mg/L
素 材	プランチウッド、山水石		
底 床	アクアソイル・アマゾニアVer.2、パワーサンド・アドバンスL、 バクター100、クリアスパー、トルマリンBC		

水 草	BIO オーターローン BIO オーストラリアンドワーヒドロコティレ BIO ウイローモス アマゾン・チドメグサ カルダミネ・リラタ アンブリア	Utricularia graminifolia Hydrocotyle tripartita Taxiphyllum barbieri Hydrocotyle leucocephala Cardamine lyra Limnophila sessiliflora	魚 種	Tigridia - Vallisneria neotropicalis Amazon - Frogbit - Limnobium sp. Amazon - Paracheirodon innesi Amazon - Floating Foxtail - Crossochelus oblongus Cardamine - Otocinclus sp. Limnophila - Yamato Numaebi - Caridina multidentata
-----	---	---	-----	---

©AQUA DESIGN AMANO

## 幻想の水景を レイアウトで表現するための 3つのポイント

自然景観などからインスピレーションを受けるのではなく、頭の中でイメージした幻想的な世界を水槽の中に表現するのが今回のレイアウトのコンセプトとなっている。そこで、水景の印象が幻想的なものになるように、構図、植栽、魚種の選択にそれぞれ創意工夫をこらした。その狙いは一度見たら記憶に残るにも関わらず、そのイメージは抽象的にしか思い出せないような水景である。



流木は印象を弱ぐするために水槽背面に立てかけるように配置した。



植栽直後のレイアウト／2020年7月2日 撮影

### 1 水草の浮遊感を表現する

水中での浮遊感を出すために、チドメグサの仲間をメインに多用。節間が長く、丸みを帯びた葉が水中に漂う様子を演出する。



チドメグサが水底から水面に向かって広がって生長する様子を表現するために、流木の高い位置にも巻き付ける。



意図的にポイントや見せ場をつくらないように植栽。



©AQUA DESIGN AMANO

### 2 水草の境界線を曖昧にする

同系統の色や形の水草でまとめてることで、はっきりとした植栽の境界線をつくらず、水景全体を曖昧な表現にしている。



大きく目を引くような魚種ではなく、あえて小型のネオン・テトラを泳がせた。遠目では小さくて姿が見えにくいか、青と赤のきらめきが水景全体を幻想的に彩る。またポピュラーなイメージもよかつた。

## 制作者の意図を反映する フレキシブルな メンテナンスの裏側



### 【アマゾン・チドメグサ】

#### 適度な摘み取り

創作テーマに幻想的世界観をおいた本水景では、浮遊感(フワフワ感)を表現するため活着性水草ではないアマゾン・チドメグサを流木に巻き付け、ツタのようなイメージで流木に沿わせてある。常に流木に沿って生長させる必要があるため、長期間でも溶けないテララインを使用して、巻き数は少なく、葉がつぶれないように注意した。

流木に沿わず、横に飛び出して伸びた葉は、下草や中景部分への光を遮ってしまうため、適度に摘み取りを行った。生長するにつれ、アマゾン・チドメグサの茎が流木に沿わずに展開したときには、再度巻き直しをすることで景観の長期維持に努めた。



#### テラライン

活着性のない水草を構図素材に沿わせて生長させたい場合は、モスコットンとは違い、水中で溶けないテララインのほうが適しています。



### 液体栄養素での管理

水中根を頻繁に出す水草は底床からの養分も必要であるが、根以外からも養分をよく吸収するため、液体栄養素の添加コントロールが重要となる。特に三大栄養素の一つである窒素は、チドメグサの仲間の生長に大きな影響を与える。その日の水草の状態を観察し、添加量をこまめに調整することで、レイアウトの構成的魅力を保つように強健に育てる同時に葉色アップで水草の明るい色を保つことを意識した。



#### グリーンブライティ・ニトロ

生長の鈍化や葉色が薄くなる現象が発生した場合には、窒素分を補う働きを持つグリーンブライティ・ニトロの添加が効果的。



### 【アンブリア】

#### 差し戻し

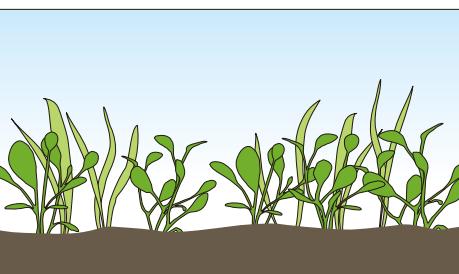
アンブリアは摘み取りやトリミングに弱いため、高さが出てきたら差し戻しの管理が必要となる。水草同士の境界を明確にせず、自然な感じにみせるために、あえてアンブリアの頂芽はそろえずランダムに差し戻している。つまり頂芽を整える差し戻し方法ではなく、そろえ過ぎないことを意識した管理方法である。他の水草の生長の様子を見ながら、差し戻しのタイミングを調整することが重要であり、ここでは難しかった。

また、アンブリアは縦に伸びやすい水草であるが、光が当たらないと矮小化して下茎部から溶けてしまうため、水面付近のアンブリア・フロッピングピットやアンブリア・チドメグサの間引きをこまめに行う必要もあった。

#### プロピンセット L

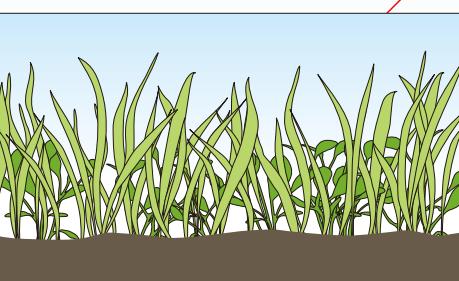
先端が細く、入り組んだ構造の中でもスムーズに作業が行えます。レイアウター必携の1本です。

### ウォーターローンとグロッソスティグマの混栽術



植栽初期は底床の余分な栄養分をグロッソスティグマが吸収。

↓ 4ヶ月後



グロッソスティグマを覆うようにしてウォーターローンが生長。

### 【ウォーターローン】

#### 植栽の裏ワザ

水景全体がライトグリーンで統一された中、ひときわ明るい印象を与える水草がウォーターローンである。ウォーターローンの旺盛な生長により前景と中景がボーダーレス化し、曖昧さを表現することにつながっている。そのウォーターローンをいち早く一面に繁茂させるには、植栽初期にグロッソスティグマを混栽する手法があるのでここで紹介しておきたい。

貧栄養下で育つ傾向のあるウォーターローンは、栄養分が多く含まれる新品のアマゾニアなどでは、育成に手を焼くことがある。そこで、グロッソスティグマを混栽することにより余分な栄養分を吸収してもらい、ウォーターローンの生長しやすい環境を整えるという方法である。ウォーターローンが貧栄養下で育つのに対して栄養分を必要とするグロッソスティグマはだんだんと弱まっていき、混載しても時間が経つにつれウォーターローンがグロッソスティグマを覆いつくすように繁茂していくようになる。また、栄養分のコントロールがしやすいアマゾニア ver.2の使用も有効的である。

## 井上 大輔が語る 発案から完成までの思考プロセスと 目指している水景のあり方

水景をつくるうえで一般的には、川や山、海などの自然の風景に着目して水槽内に落とし込むことがセオリーと言われています。しかしそうしたアプローチだけでは写実的な表現に偏ったり、ステレオタイプの表現に陥りやすくオリジナリティがなくなってしまう場合があります。そこで自分なりの個性的な水景をつくるために、コンセプトやテーマを決めて、そこからイメージを頭の中で膨らませ、これらを構図、水草、魚

などに順次置き換えてレイアウト構成を具現化していきます。今回の水景のコンセプトである「幻想的」とは風景などとは違い実際に見えるものではなく、「架空」や「夢のような」、「現実味がない」、「目を疑う」などのイメージ表現の一部なので、形もなければお手本もありません。イメージを形にすることはとても難しく、それを具現化するには時間がかかりました。私が制作した水景は、よく奇抜と言われることがありますが、あえて奇抜につくっている訳ではなく表現したいものを制作しようと追求した結果、一般的なつくり方ではなくなることがあるだけなのです。

これにより好みが分かれる水景になってしまいますが、基本的にはネイチャーアクアリウムの概念である「自然の再現」や「自然を切り抜いたような水景」を意識しています。また、私は自分がつくる水景を作品とは呼ばないようにしています。なぜなら水景クリエイターとして制作する際に、作品をつくり込もうと考えてしまうと、配石や流木の置き方が工作的になってしまいます。作品として評価されるものではなく、少しでも自然の美しさや力強さ、大切さなどについて考えるきっかけとなる水景を個人的には目指して制作しています。(井上)



井上 大輔  
Daisuke Inoue

ADAの水景クリエイターの中では、既成概念にとらわれない個性的な水景表現に定評がある。まずはコンセプトありき。

## 作例から読み解く イメージを表現するための レイアウト構成術

ここでは引き続き個性派表現にこだわる水景クリエーターの井上 大輔に印象的な2つの水景の制作過程を振り返ってもらった。特有のイマジネーションの世界は、決してインパクトや奇をてらったものではなくあくまで純粹。そんなところにも井上のつくる水景の魅力の秘密がありそうだ。



「古木と芽吹き」  
サイズ: W180×D60×H60(cm)

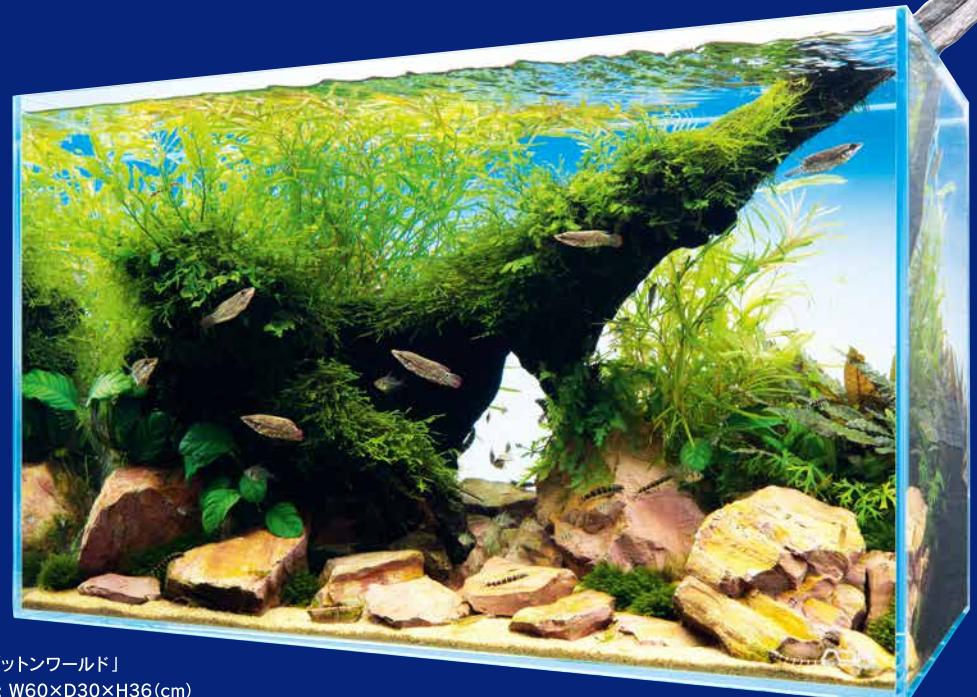
### 悠久と生命力

この水景のテーマは「悠久と生命力」であり、それを表現するために構図、水草、魚種を模索していきました。樹齢千年を超える屋久杉を思い浮かべ、障害物や岩を避けて根を伸ばす姿をイメージし、大きく曲がりくねったホーンウッドを使用しました。さらにそれら周りに山水石を配置し、大樹の根が絡まり合う姿を表現したつもりです。「悠久」の表現としては、古木の苔生した姿を表すため、ウイローモスを流木全体に活着させうつそうとした雰囲気をつくっています。さらに耐陰性の強い植物が多い林床をイメージし、比較的濃い緑色のコブラグラスやタイガー・パリスニアを使用。「生命力」の表現としては、明るく鮮やかな色彩の

ロターラ・マクランドラなどの有茎草を使い、植物のみずみずしさと繁殖力が感じられるように工夫しました。また、オーストラリアン・ヒドロコティレをモスを巻いた山水石の間に配置することで、ランナーがウイローモスの上をはうように生長し、古木や岩に絡みつくツル植物のような旺盛な繁殖力を感じさせる狙いがありました。魚種は原始的な森のイメージに合わせるため、華やかな魚ではなくあえて銀鱗輝くジャイアント・グニオを選択。古くからそこにあり続いている自然の姿を「悠久」、何もなかつたところから新たに誕生する自然の姿を「生命力」として、異なる時の流れの中でたくさんの生命が共存していく姿を表現しています。(井上)

### 太古の世界

ネイチャーアクアリウムでは山や川などの自然風景から着想を得てレイアウトをつくるのが一般的ですが、この水景では空想画や映画でしか見ることができない時代の風景をイメージから形にしています。そのテーマとした時代は、今からおよそ2億年前に始まつたとされるジュラ紀。巨大なシダ植物が生い茂り、恐竜たちが闊歩していた太古の時代を表現したレイアウトです。制作を始めるあたり、構図、水草、魚種の3つの要素をそれぞれどのようにジュラ紀のイメージに近づけるかを考えました。構図の骨格となる流木は、風化した木の表面から時の流れを感じられるように、レイアウトで使い古されたホーンウッドを用いています。そして化石が発掘されそうな堆積岩の雰囲気を出すには、深石が最適でした。また大地の地割れを表現するためには厚みのない渓石を化粧砂の上に並べたのですが、その配置する作業は楽しくもありました。水草は形を変化させずに進化してきたとされるシダ類やモスなどに加え、葉の色や形が特徴的なアヌビアス・コーヒーフォリア、原始的なイメージが感じられるラヌンクルス・インナンダタスなどのユニークな水草を積極的に使用しました。一般的な水草レイアウトではあまり使われない水草を配置することで、見慣れない世界=見たことのない時代を表現したつもりです。魚種についてはガラスのように透けた体を持つインディアン・グラスフィッシュや、恐竜のイメージにも似たクテノブス・ノビリスなど風変わりな姿や泳ぎ方に特徴がある魚種でまとめたことで不可思議な雰囲気も演出できたと思っています。(井上)



「フォゴットンワールド」  
サイズ: W60×D30×H36(cm)



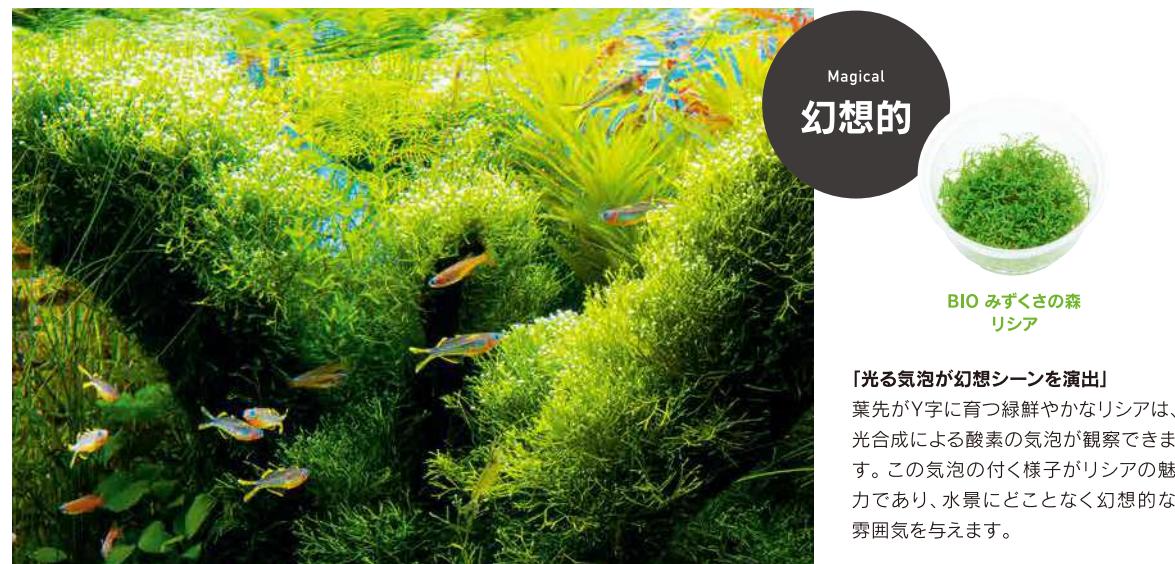
# MIZUKUSA IMAGINATION

## 「イメージを表現する」

水草レイアウトをつくる楽しさは、思い描く頭の中のイメージをどれだけ上手く表現できるかというところにあります。まずは表現したいイメージに合った水草を選ぶことからはじめてみましょう。



「果てしない草原のイメージ」  
水流になびく緑一色のヘアーグラスはあたかも風になびく広大な草原を彷彿させます。石組レイアウトでショート・ヘアーグラスだけを使用した水景などは、まるで壮大なパノラマ景観を眺めているように感じます。



「光る気泡が幻想シーンを演出」  
葉先がY字に育つ緑鮮やかなリシアは、光合成による酸素の気泡が観察できます。この気泡の付く様子がリシアの魅力であり、水景にどことなく幻想的な雰囲気を与えます。



「メルヘンチックな群生美」  
水草レイアウトでは脇役的にポイントとして配すると、その見た目の可愛らしさから存在感が際立ちます。独特の形状とその生え方には他の水草にはない面白さがあり、群生する様子はどことなく微笑ましく見えます。



# Enjoy DOOA

GLASS POT SHIZUKU

多湿環境を好む  
エキゾチックな  
熱帯植物を楽しむ



## DATA

### 【植物】

ベゴニア・ドラコペルタ  
ベゴニア・アンフィオクサス  
ソネリラ・ワヤナード ホワイトスポット  
ペペロミア・エマルギネラ

2020年11月2日 撮影(ADA)  
レイアウト制作 岩堀 康太  
©AQUA DESIGN AMANO

### ベゴニア・ドラコペルタ

2019年に新種記載された根茎性のベゴニアで、比較的強健種。その特徴的な葉面の凹凸は、レイアウトで主役級の存在感を放つ魅惑種。壁面環境ではクライムする性質を持つ。



### ベゴニア・アンフィオクサス

木立性のベゴニアなので、草丈はやや大きくなる。ビビットカラーの葉はレイアウトのアクセントのみならず、ネオグラスエア、ガラスボッド SHIZUKU に単体で植えても楽しみたい。

### ペペロミア・エマルギネラ

コショウ科の植物で、生長も速く乾燥にも強い。極小の葉形も可愛らしく、ツルのように垂らしたり、前景に植栽してほふくさせたりしても使いやすいレイアウト向きのジャングルプランツ。



### ソネリラ・ワヤナード ホワイトスポット

ノボタン科の植物で入門種としても育てやすく、草丈も大きくなるためボリューム感が出やすい。鮮やかなピンク色の花は可憐で上品。ぜひ咲かせてみて欲しい。

ジャングルプランツ・シリーズより、新登場の植物たちをシンプルに配植しました。これらは BIO みずくさの森と同様、組織培養でラインナップされています。培地を外してそのまま植栽し、自然さながらに個々が競い合うように育成しました。ガラスボット SHIZUKU は本体上部に設けられた4つの通気孔によりガス交換を行い、適度な湿度環境を保てるため、馴化もスムーズでした。多湿環境を好むエキゾチックな熱帯植物を、ガラスボット SHIZUKU でより手軽に楽しめませんか？

DOOA, an inspiring brand helps you enjoy aquatic plants more freely. Minimal and easy, and designed as a platform allowing everyone to nurture plants indoors. Feel closer to nature, and bring beauty into your life.

# JUNGLE PLANTS

## BEGONIA COLLECTION

### ベゴニアの葉コレクション

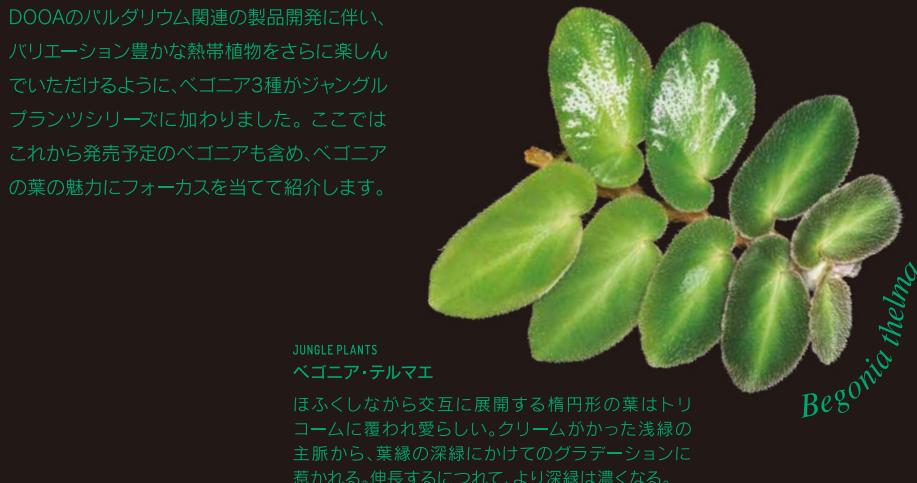
DOOAのパルダリウム関連の製品開発に伴い、バリエーション豊かな熱帯植物をさらに楽しんでいただけるように、ベゴニア3種がジャングルプランツシリーズに加わりました。ここではこれから発売予定のベゴニアも含め、ベゴニアの葉の魅力にフォーカスを当てて紹介します。



JUNGLE PLANTS  
ベゴニア・クロロスティクタ グリーン  
常緑色の余白に映えるライトグリーンの葉縁の帯と水玉模様がポップな印象。クロロス=緑色+スティクタ=斑点が名前の由来で、本種は緑色だが黒色や茶褐色のカラーバリエーションも知られている。



JUNGLE PLANTS  
ベゴニア・アンフィオクサス  
シャープなひし形の葉の表面に浮かぶショッキングレッドの水玉模様は、現代アートさながらのデザインのよう。その毒々しささえ感じるサイケデリックな色彩が魅力的過ぎてヤバい。



JUNGLE PLANTS  
ベゴニア・テルマエ  
ほふくしながら交互に展開する橢円形の葉はトリコームに覆われ愛らしい。クリームがかった浅緑の主脈から、葉縁の深緑にかけてのグラデーションに惹かれる。伸長するにつれて、より深緑は濃くなる。



# ADA NATURE AQUARIUM PRODUCTS STORY

CHAPTER  
02

## 「CO<sub>2</sub> SYSTEM」

ADA NATURE AQUARIUMではネイチャーアクアリウムをつくるうえで必要なものが製品化されています。ここでは性能やデザイン性、オリジナリティがつぎ込まれた製品群の魅力について発信していきます。

Text Ryuji Ogawa



CO<sub>2</sub>システム74-YA/Ver.2

CO<sub>2</sub>システムのスタンダードモデル。CO<sub>2</sub>アドバンスシステムにも含まれる。



CO<sub>2</sub>システム74-SA

CO<sub>2</sub>吐出圧力を0.00~0.35MPaの間で設定可能なCO<sub>2</sub>システムの上位モデル。

### 水槽での水草育成を可能とした 世界に先駆けて開発されたCO<sub>2</sub>システム

水草たちは光合成によって二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)と水から有機物を生産し、その物質とエネルギーを利用して生長していく。そのため、光合成を促進するためのCO<sub>2</sub>添加は、水草たちの健やかな生長に必要不可欠といえる。今回はそのCO<sub>2</sub>を安全に水槽へ供給する上で必須となるCO<sub>2</sub>システムについて紹介する。ADAでは水草の育成方法を確立するために、創業以来その開発に注力し、CO<sub>2</sub>小型カートリッジボンベとCO<sub>2</sub>レギュレーターを使った画期的なCO<sub>2</sub>システムを生み出した。1985年には世界に先駆

けてそれらを製品化し、水草の育成を容易にした。また、CO<sub>2</sub>小型カートリッジボンベに充填されている炭酸ガスは、工業排気ガスから二酸化炭素を精製し生産しているため、水草の光合成に利用されることで大気中に放出される二酸化炭素を減らすことにつながる。このCO<sub>2</sub>小型カートリッジボンベを確実に開封するフローティング針や、精度の高いスピードコントローラーの採用など、安全性と性能を重視したパーツを早くから取り入れてきたこともADAのCO<sub>2</sub>システムの特長となっている。



CO<sub>2</sub>フォレストボトル  
現行のCO<sub>2</sub>カートリッジボンベ。森林をイメージした爽やかな香り付き。

DOOA, an inspiring brand, helps you enjoy aquatic plants more freely. Minimal and easy, and designed as a platform allowing everyone to nurture plants indoors. Feel closer to nature, and bring beauty into your life.

# DOOA STYLE

自然の時を  
育てる。

Text Kota Iwahori

#08



一般に活着性植物の多くは、生長スピードはとても緩やかで、中にはひと月かけて新葉を展開するものもあります。管理の手間はあまりかかりませんが、テラベース一本仕上げるにはなかなかの月日がかかる点、玄人向けの趣味にも思えてしまいます。しかしながら、待ち焦がれた開花のときや、コケがふんわりと展開したときの高揚感は、何事にもかえがたいものです。せわなく流れる私たちの時間とは異なり、その小さな空間に流れる自然の時には尊さを感じます。

DATA  
■ネオグラス エア W20×D20×H30(cm)  
■専用ガラスフタ 20×20(cm)  
■テラベース S

[植物]  
ペペロミア・エマルギネラ  
ディネマ・ポリブルボン  
セラストティリス・フィリビネンシス  
ブレウロタリス・コスタリセンシス  
クリスマスマスモス  
制作 ADA



中米熱帯雨林の小型着生ラン代表種、ディネマ・ポリブルボンが咲く。パッとひらく快活な花姿は、まるで小さな太陽を見ているよう。

# ネイチャー コラム

NATURE COLUMN

常日頃からネイチャーに身を置くライ季節ごとのコラムを発信していきます。

A close-up photograph of a small insect, possibly a fly or mosquito, resting on a white, textured surface, likely snow. The insect is positioned in the lower-left foreground. In the background, the dark-colored legs and paws of a dog are partially visible, standing in the snow. The scene is outdoors, with a bright, overexposed sky above.

春にはチヨウが舞い、夏にはトンボが飛び交い、秋にはコオロギたちの音色に癒され、虫たちは季節ごとに私たちを楽しませてくれますよね。さて、冬はどうでしょうか？今年の冬は予報通り各地で大雪に悩まされる年となっていましたが、そんな冬でも見られる虫、というとどんな虫が思い浮かびますか？フユシャクガやセツケイカワゲラなど、「冬」や「雪」といった名称がつけられる虫たちも一部いるように、寒い季節にも活動をしている虫たちが存在します。そして、なんと今回は名前のわからない虫が登場します。写真の虫は双翅目キノコバエ科の一種です。彼らは謎に満ちた種類の生き物で、まだまだ新種も発見されているグループになります。ADA本社の森で撮影したこの個体はおそらく一般種なのでしょうが、もしかしたら新種の可能性だってあるくらい未知の生物群なのです。キノコバエの仲間は環境・四季に応じて通年観察することができ、種類によっては

害虫として知られているものもあります。一方で認知されずに生きている種類もあり、不可思議な生き物といえます。食性も解明されてないものが多く、菌類や地衣類、原生動物、または腐植質のものなどを食べていると報告されています。雪上にも何かあるのでしょうか、この個体はしきりに雪の上を歩き回り、時折飛んで場所を変えるようなことを繰り返していました。冬という季節は世界的には地域限定の環境要因ですが、そこで生き抜くためには進化してきた生き物たちの強さには感動すら覚えます。生命維持に苦労する季節を乗り越える術として、渡り鳥のように生活圏を変え、一部の哺乳類のように冬眠して過ごすなど個々の性質に合わせた方法がとられています。虫たちも蛹越冬や卵越冬のように戦略をもつて冬に挑んでいます。春のあたたかな日差しが待ち遠しいですが、寒空の下でもたくましく生きる虫たちを観察しにネイチャーハウスにかけてみてはいかがでしょうか。

## 「雪中昆虫觀察記錄！」

第 8 回

文・写真／小川 龍司

## INFORMATION —

# THE INTERNATIONAL AQUATIC PLANTS LAYOUT CONTEST 世界水草レイアウトコンテスト。 **サポートショップ**

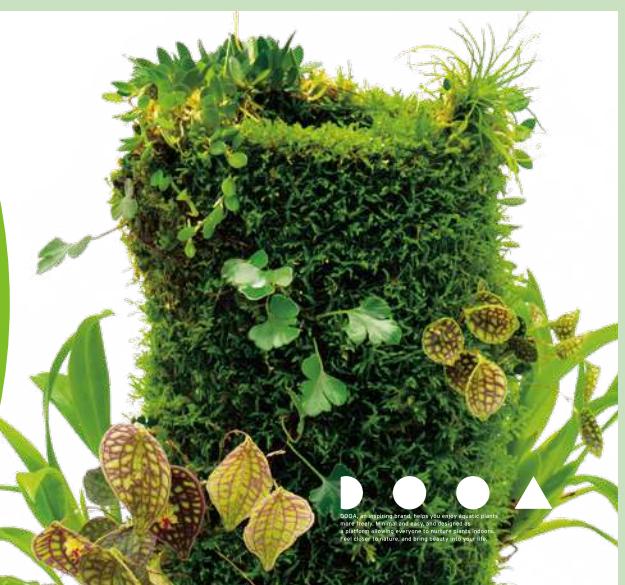
## 水草レイアウトを楽しむすべての アクアリストの情熱を応援します

新たなIAPLCの開催にあたり、2021年より全世界にIAPLCサポートショップが展開していきます。また、IAPLCをより楽しめるような企画や、サポートアーズアイテムの販売も予定していますのでどうぞ期待ください。IAPLCサポートショップは公式HPにて紹介しています。



※すべてIAPLCサポートショップ限定配布・販売となります。

The cover features a large green triangle at the top left containing the text '新連載' (New Feature). Below it is the title 'WEB AQUA JOURNAL'. The main title 'HOW TO ENJOY TERRA BASE' is prominently displayed in large, bold, black letters. To the right of the title is the subtitle 'ハウトイ・エンジョイ・テラベース'. At the bottom, there's descriptive text about the products and a call to action: '詳しくはADAオフィシャルホームページから。' (For details, visit the ADA official website.) The ADA logo is at the bottom left, and the URL 'www.adana.co.jp' is at the bottom right.



STAFF CREDIT

AQUA DESIGN AMANO CO.,LTD  
©2024 R.I.L.L JAPAN

Publisher Art Direction

Editor 杉本俊輔／岩堀康之

## Design

／小川 龍司／滝沢 瑞生／渡邊

Published by

株式会社アダナソリューションズ  
<https://www.adana.co.jp>

NEXT AΠΙΑ JOURNAL

APRIL 2021 vol 306 / 2021年3月10日(水)発売予定

アクアジャーナルの情報は一部、  
ADAホームページで公開しています。